

〔江戸東京野菜生産流通拡大事業〕（受託試験）

「金町コカブ」3系統の品種特性

～露地栽培での品質の月次変化とハウス栽培による品質向上の効果～

蜷木朋子・遠藤拓弥*・野口 貴・海保富士男・徳田真帆

（園芸技術科）*現小笠原農セ

【要 約】「金町」コカブの露地栽培では8月下旬～10月上旬、12月上旬～4月上旬の播種で可販率が高い。露地で可販率が著しく低下する10月下旬～11月下旬播種ではハウス栽培で可販率が向上する。

【目 的】

「金町コカブ（以下、金町）」で販売されている3系統を使い、通年で露地栽培して品質の月次変化を明らかにし、商品性の高いコカブが収穫できる時期を把握する。また、コカブは春期と冬期にハウス栽培されることがあるため、その効果を明らかにする。

【方 法】

「金町」コカブの3系統（日本農林社：以下、日農、サカタのタネ：以下、サカタ、タキイ種苗：以下、タキイ）と対照品種「白馬」（武蔵野種苗園）を露地で通年、ハウスで春期と冬期に栽培した。露地・ハウスともに化成8号をNで15kg/10a施肥し、条間14cm、株間12cmに3粒ずつ播種して1本に間引き、露地では栽培期間中に寒冷紗でトンネル被覆した。収穫は球径5～6cmを目安に2021年5月～2022年4月まで間引き収穫した。

【成果の概要】

1. 栽培期間中の日平均気温はほぼ平年並みに推移した（図1）。露地で「金町」の可販率は3月～4月中旬播種で高く、4月下旬以降で低下していき8月上旬では0.2以下となった。8月下旬～10月中旬播種まで可販率は高く推移した。10月下旬～11月下旬播種では最も低下し、12月上旬～2月下旬で可販率は向上した。「白馬」の可販率は8月上旬、10月下旬～11月下旬播種で低下した（図2）。「金町」は4月下旬から可販率が低下することから「白馬」より耐暑性が低いと考えられる。
2. ハウスで「金町」の可販率はサカタ、タキイで4月中旬～5月中旬播種、日農で4月下旬～5月中旬播種に0.8以上と高く、10月中旬～2月下旬に0.6以上となった。露地と比べ、ハウスの可販率は春期および冬期の12月上旬以降播種で同等かそれ以下であるが、10月下旬～11月下旬播種では高くなる（図2）。
3. 露地で播種から収穫までの平均日数は4月下旬～8月下旬で39～47日、1, 2, 3, 9月で50～70日、10月下旬～12月中旬で104～114日となった。ハウスでの平均日数は露地と比べ、1月下旬～4月下旬はほとんど変わらず、10月下旬～11月中旬で35日～40日、11月下旬～12月中旬で20日程度早かった（図3）。
4. 「金町」の露地栽培では5月中旬～8月中旬播種と10月下旬～11月下旬播種に可販率が著しく低下する。10月下旬～11月下旬播種のハウス栽培で可販率の向上効果がある。

【残された課題・成果の活用・留意点】

成果は江戸東京野菜栽培のマニュアル作成の資料とする。

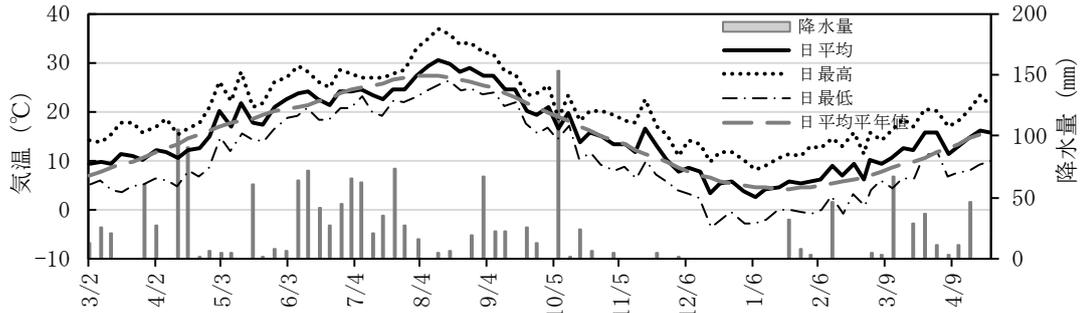


図1 栽培期間中の気象条件 (2021年3月～2022年4月)
府中市の気象庁過去データを参照した。

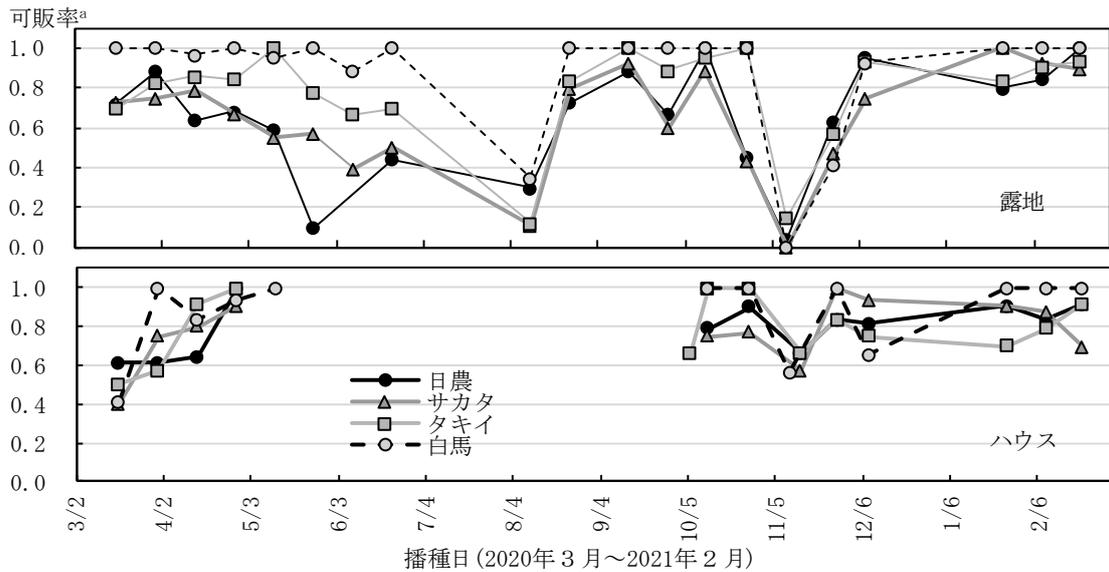


図2 「金町」3系統と「白馬」の可販率の月次変化 (上: 露地, 下: ハウス)

a) 収穫全数から障害(裂球, 歪み, 表面剥離)個体数を差し引き, 収穫全数に対する割合で示した。1で障害なし。

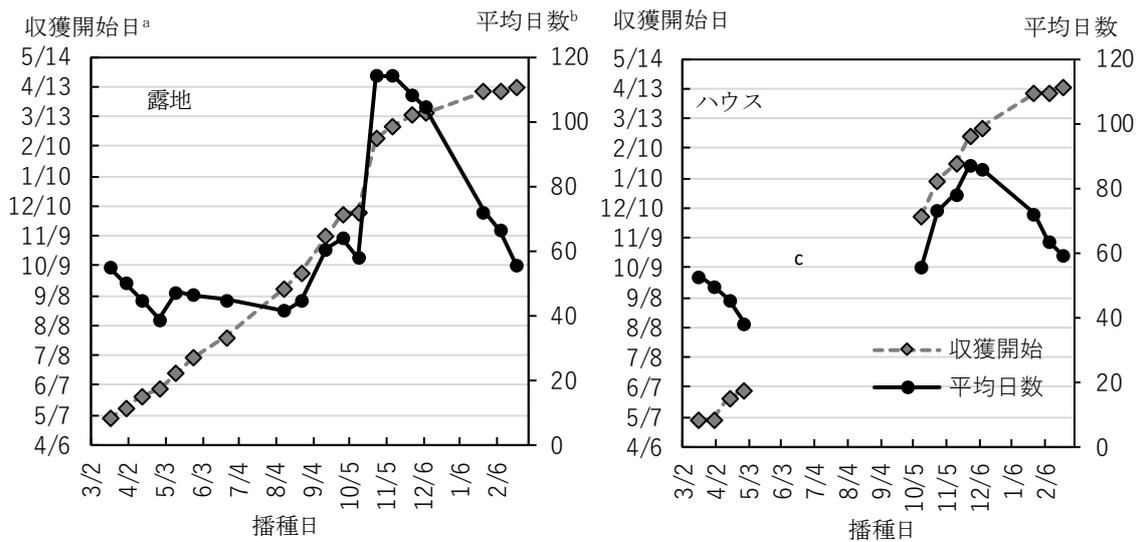


図3 「金町」(日農)の播種日毎の收获開始日と平均日数 (左: 露地, 右: ハウス)

a) 収穫を開始した日 b) 播種から収穫までの日数で, 収穫日が複数日の場合は収穫数の割合から平均日数を計算した。 c) 5月～9月の期間はハウス栽培を行わなかった。